



2026年5月15日

公益財団法人日本バドミントン協会 (BAJ)

日本バドミントン協会 × 日本女子大学「経済学部（仮称）」 経済学の視点で、女性・若年層に届く新たな観戦価値を提案 - 「バドミントンファミリー100万人実現に向けた共同プロジェクト」開始-



公益財団法人日本バドミントン協会（会長：村井 満、Badminton Association of Japan、以下「BAJ」）は、日本女子大学（東京都文京区、学長：篠原聡子）が2027年度に開設を構想する「経済学部（仮称）」の前身となる家政学部家政経済学科と連携し、BAJが掲げる「バドミントンファミリー100万人」の実現に向け、バドミントンの観戦価値の向上および新たなファン層の拡大を目指す共同プロジェクトを開始いたします。

BAJは、競技登録者数（約30万人）に加え、ファンも含めた「バドミントンファミリー」を100万人に広げることを掲げています。その実現に向けては、競技者や競技経験者、関係者にとどまらず、若年層や一般層へと裾野を広げていくことが不可欠であり、観戦体験の価値を高めていくことが重要なテーマとなっています。

本プロジェクトでは、日本女子大学家政学部家政経済学科の学生が、生活者および若年層の視点から、バドミントン観戦の価値向上をテーマに、会場体験、公式グッズ、SNS発信、パートナーシップのあり方などについて分析・検討を行います。若年層・女性層に近い当事者としての視点を生かし、従来の発想にとどまらない新たな観戦価値の創出を目指します。

日本女子大学家政学部家政経済学科は、「生活」の視点を基盤に、家族や消費者など多様な立場から人間と社会を考える学びを重ねており、若年層・女性層に近い当事者としての視点を生かせることも今回連携する狙いの一つです。

6～7月にはBAJ担当者による特別授業を実施し、競技普及や観戦ビジネス、パートナーシップ施策などについて理解を深めます。7月には「ダイハツジャパンオープン2026」においてフィールドワークを実施し、実際の観戦体験を通じて課題と可能性を把握します。

その後、学生は観戦体験の分析をもとに、「バドミントンファミリー100万人」の実現に向け、新たな観戦価値の創出につながる施策を検討し、11～12月にBAJに対して提案を行う予定です。

BAJは、今後も、「バドミントンファミリー100万人」の実現に向け、ファン層の拡大に取り組んでまいります。



■ 日本バドミントン協会 会長 村井 満コメント

日本バドミントン協会は、1946年の創設から2026年に80周年を迎えます。一昨年には、協会のパーパス・バリューを再定義し、昨年には協会ロゴを刷新するなど、新たなブランドづくりに取り組んできました。日本のバドミントンは、代表選手たちの国際大会での活躍により、競技力・国際的評価ともに高い水準にあります。さらなる発展に向けては、競技経験の有無に関わらず、より多くの方々に魅力を知っていただき、観戦の裾野を広げていくことが重要です。本プロジェクトを通じて、若い世代をはじめ、多くの皆さまにバドミントンをより身近に感じていただき、新たなファンとの接点が広がっていくことを期待しています。

■ 日本女子大学 経済学部学部長（就任予定） 伊ヶ崎 大理コメント

本プロジェクトは、本学が2027年の経済学部（仮称）開設に向けて進める教育活動の一環でもあります。経済学は、お金の動きだけでなく、人々の行動や社会の仕組みを分析する学問です。スポーツを題材に、観戦体験や収益構造、スポンサー価値などを経済の視点から捉えることは、学生にとって実社会の課題を考える貴重な機会になると考えています。大学で培ってきた学びを生かし、学生が自らの視点で新たな価値を見出し、実践的な提案につなげてくれることを期待しています。

プロジェクトの主な実施内容

2026年6～7月 特別授業

日本女子大学家政学部家政経済学科において、日本バドミントン協会担当者による特別授業を実施し、競技普及、観戦ビジネス、メディア露出、パートナーシップ施策等に関する現状の取り組みおよび今後の方向性について共有するとともに、競技を取り巻く課題への理解を深めます。

2026年7月 バドミントン観戦体験フィールドワーク

「ダイハツジャパンオープン2026」〈2026年7月14日（火）～7月19日（日）開催〉を対象に、学生が実際に観戦体験するフィールドワークを実施します。会場での観戦体験、演出、導線、情報発信、物販、来場者の様子などを多角的に把握し、「みるスポーツ」としてのバドミントンの魅力と課題を整理します。

2026年9月～10月 ワークショップ

特別授業およびフィールドワークを踏まえ、学生が生活者・若年層の視点から観戦体験を分析し、グループワークを通じて、「バドミントンファミリー100万人」の実現に向けた、新たな観戦価値の創出につながる施策案を検討します。

2026年11～12月 施策提案・発表

学生が施策案を取りまとめ、日本バドミントン協会に対してプレゼンテーションを実施します。提案内容は、今後の施策検討に向けた参考として活用されることを想定します。



■日本バドミントン協会について

日本バドミントン協会（BAJ）は、日本におけるバドミントンの普及と振興、そして競技力向上を目的とする統括組織として、多岐にわたる事業を通じて、バドミントンの健全な発展を牽引しています。主な活動として、国内全ての公式試合を対象とした競技規則や運営規則の制定を行い、全日本総合バドミントン選手権大会やS/Jリーグをはじめとする主要な競技会の主催・運営や、国際的な舞台で日本が活躍できるよう、世界選手権やオリンピックなどの国際大会へ派遣する日本代表選手の選考および強化、ジュニア選手の成長を目的とした事業に取り組んでいます。

また、競技の普及発展のため、指導者および審判員の育成、認定、登録を担うと共に、これを支える地域の活動をサポートし、生涯スポーツとしてのバドミントンの普及・啓発に貢献していきます。

（詳しくはこちら：<https://www.badminton.or.jp>）

■日本女子大学について

日本女子大学は、日本初の組織的な女子高等教育機関として創立し、2021年に120周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、文理融合の教育環境をもつ女子総合大学です。「私が動く、世界がひらく。」のタグラインのもと、自ら学び、自ら行動し、新しい価値を創造できる人材を育てています。2024年度は「建築デザイン学部」を開設し、昨年度には「食科学部」を開設、さらに今年度には文学部2学科の名称変更をしました。2027年度には「経済学部（仮称）」の開設（構想中）、2028年度には「ファッションデザイン学部（仮称）」および「人間科学部（仮称）」の開設（構想中）と、継続して大学改革を進めていきます。

（詳しくはこちら：<https://www.jwu.ac.jp>）

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

公益財団法人日本バドミントン協会
広報渉外室 広報・ファン戦略チーム
mail：press@badminton.or.jp